

平成28年度 第3回河北町総合教育会議会議録

平成28年12月22日（木曜日）

1 出欠席者氏名

河北町長 田宮栄佐美 河北町教育長 原田孝夫

河北町教育委員 真石由美子 板坂憲助 高木茂宏 大山直子

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 佐藤晃一 生涯学習課長 矢作勲

教育主幹(兼)指導主事 大竹 純 課長補佐(兼)管理係長 田川美和子

3 日 程

平成28年12月22日（木）午後3時開会、開議 河北町役場3階・委員会室

1 開 会

2 田宮町長あいさつ

3 協 議

(1) 第2次河北町教育振興計画について

4 その他

5 閉 会

1 開 会

○田川課長補佐(兼)管理係長

ただいまより、平成28年度 第3回河北町総合教育会議を開催いたします。初めに田宮町長よりご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

○田宮町長

第2次河北町教育振興計画について、内容も大分まとまってきてまいりましたが、更に中身を精査していきながら取りまとめていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○田川課長補佐(兼)管理係長

それでは3協議に入らせていただきます。座長を田宮町長にお願いします。

3 協 議

○田宮町長

それでは、次第に基きまして協議を進めてまいります。(1)第2次河北町教育振興計画について説明をお願いします。

○佐藤学校教育課長：資料「第2次河北町教育振興計画（案）」により説明

11月16日に、厚生文教常任委員会に第3章を説明してから、第4回目の策定会議を11月17日、その後、12月5日に第4回の策定委員会を開催いたしました。第4回目の策定会議・策定委員会では、新たに第4章を検討いただきました。計画の推進・評価につきましては、毎年行われます“教育委員会事務事業点検・評価”と、それを反映させた“かほくの教育”で毎年、進捗状況の管理をしていくということで考えています。5年後には、毎年、管理をしております集大成としまして、別に「評価委員会」を立ち上げまして、前期分の5年間の進捗状況を管理していき、その結果をもとに、残り5年間の計画を進めていくということで第4章をまとめているところです。教育委員会でも字句の訂正など意見をいただいたところではありますが、この会議では、そのほかに政策的な対応等についてご意見をいただければと思います。

○田宮町長

全体的に意見をいただくということでいいのでしょうか。

○佐藤学校教育課長

はい。

○田宮町長

それでは、これまでいろいろ議論をしていただきましたが、全体的な中でご意見等お願いいたします。

○田宮町長

それでは、第1章でお願いいたします。

○田宮町長

ないようですので次に第2章お願いします。

基本方針等、今、話になっている県のほうで取り組まれる内容等については、反映されたものとして、ということでもいいのでしょうか。

○原田教育長

国の施策と、あとまもなく学習指導要領も変わるのですが、それも受けて中身を考えています。県の第6次教育振興計画も踏まえながら作成しています。

○田宮町長

小学校の英語教育や道徳等、いろんな事が言われているようなことも反映されたものだと捉えていいですね。

○大竹教育主幹

はい

○田宮町長

それでは、具体的な第3章の中でお願いします。

○原田教育長

P18の道徳の教科化については。

○大竹教育主幹

「特別の教科（仮称）」と書かせていただいています。仮称がとれるのは間違いなさそうであるということと、後は考える道徳というキーワードは文科省が言っていることと合致するので、この3つの表記で道徳教育の充実ということで述べるには、十分とまではいかないが、事足りているのかなと判断しているところです。

○真石教育委員

P10 地域と共にある高校教育への支援ということで、谷地高校の存在を記載し、町として応援するという姿勢がでていることはとても良いことだと感じています。県立高校なので、町の教育振興計画の中では、そんなに触れることはないのだろうなと思いつつも、前の方で、こういうふうに言っているのだから、交流ということでどこに出ているのかと思うと、P39の(2) 家庭や地域、環境保全団体等との連携と学校間の交流のところに記載になっていて、いいなと思いました。たとえば、P46(2)体験活動を柱とした郷土文化の学習の展開のところで、高校生が“どんがまつり”に参加してくれていますよね、そういうふうなものも、この中に入れて、町と谷地高校とのことが入るともったいいのかなと思います。

○田宮町長

いかがでしょうか。谷地高校の地域との活動の状況ですね。

○原田教育長

後援会経費を活用して雅楽の講習会を開催しています。町の総合文化祭では、美術部の展示もあわせて実施しています。

○真石教育委員

小学校にも、谷地高校の吹奏楽部が出向いて指導をしてくれているので、そんなところも入れ

てくれるといいのかなと思いました。

郷土愛を育むというのは、町の7次の総合計画でも町に誇りを持つ子どもたちを育てて、将来は町に戻ってきてもらおうという計画があるわけですが、そういうことで町の歴史・伝統芸能・文化財を子どもたちが知るということは、とても大事なことだと思います。小学校でも、折に触れそういう活動はやっていますが、地区の文化に触れたりはしていますが、町の子どもたちが郷土芸能に、それも小学校の生徒が担っている郷土芸能に触れる機会というのはなかなかないわけですね。①の記載はそのままいいとは思いますが、具体策として、たとえば、子どもたちの目に触れる場所で、小学校の子どもたちが担っている郷土芸能を披露するとかそんな機会はもてないものかと思いました。子どもたちが集まる小中音楽会などの場面で実施すれば、町内の小学生の3、4年生は、一度は目にする機会があるのではないかと思います。

○原田教育長

大人側の継承をどういうふうにしていくかということもあるかと思います。

○田宮町長

現在、作られている都市計画マスタープランの中でも、現在の河北町がこういったことでできているという河北町の伝統的な文化を土台としていかなければならないのではないかとということとで書き加えた。

○大竹教育主幹

P 4 4 (1) 地域の交流促進②の中に、伝統文化などの資源を活用した体験学習の機会というところがあるので、そこに成果を発表する機会ということをつけ加えさせていただいて、地域に根ざした情操教育というところで述べてはいかがかと思います。

○田宮町長

今、話がいったように書き加えた中で、まとめていただくということでいいでしょうか。

4 その他

○田宮町長

今後のもち方については。

○佐藤学校教育課長

1 2 月 2 7 日に所管の常任委員会に報告であげる予定です。

○大竹教育主幹

P 2 7 (1) 各種検査・調査結果の中の①英語（中学校のみ）とありますが、5・6年生については小学生の分も出来上がるという話でできています。当然、経費がかかってくるわけですが効

果・検証というところからいくと計るものがなかなか見当たりません。他の民間で扱っている検査が、N R Tの10倍以上の金額なので、折り合いがつくのがN R Tになるのかということは考えとしてはあります。10年間のことを考えれば（中学校のみ）をわざわざ限定しなくてもいいような時代が来るのかなということは予想されます。国では、2年後の取り組みで先行実施のところもありますので、おそらく業者はそこまでに準備する可能性はあります。

○原田教育長

経費のことだけを言えば、人数の自然減と教科が一つ増えることを兼ね合わせるとほぼ変わらない現状です。

○大竹教育主幹

5・6年学年で150人ぐらいと考えていくと12・3万円の費用になると思います。

○田宮町長

英語の方を重点的にしようということですから、小学校でも応援するということでやっていただいていいのではないのでしょうか。英語をとにかく身につけてもらいたいという気持ちがいっぱいありますので。（中学生のみ）というのはとった方がいいのかなと思いますが。

○大竹教育主幹

おそらく小5から中3までという範囲になると思います。

○田宮町長

3・4年生について今日あたり出ていましたよね。

○大竹教育主幹

それは、教科ではないので、評価としてはこういった検査には適していません。

○田宮町長

5・6年生からは、教科として対象にはなるのですね。

○大竹教育主幹

なります。中学校というのはなくてもいいのではないかと。

○田宮町長

P 3 1（3）③で「小学校在り方検討委員会」を組織して話をしていきたいと思います。とまとめをしていただいているわけですね。都市計画マスタープランの中では、南部地区に新しい団地が作られるということを想定しての文言の整理になっていると思いますが、そういったときの在り方検討委員会をいつの時点でどういうふうにするかという議会でも話がでると思います。

幼児教育にあたっては「幼稚園のあり方検討委員会」を作って各関係機関の皆様から議論をし

ていただき今の状態にあります。「小学校在り方検討委員会」をどういう構成メンバーで、いつ頃、どういうふうにしようかなということが一番の関心事にもなってきますので。

○大竹教育主幹

この話の中身をすれば、教育振興計画から少し離れてしまうのですが、これはこれとして話をさせていただくとすれば、平成 29 年度という 1 年間という流れの中でみた時に、夏までには、こちら側の考え方や、こういった方々を、こういった方法で在り方検討委員として招くという形をひとつつくることになると思われます。

○佐藤学校教育課長

予算関係では、10 名程度の委員報酬を計上し意見を頂戴していくということで、場合によっては 2 年かかるかもしれないということも考えているところです。

○大竹教育主幹

現状から新しい枠組みに変えていくと考えたときに比較的スムーズに移行できるのは、いま、実際 1 年生に小学校にいるわけですが、その子たちが卒業するまでの期間の中で、発表をどのタイミングでして、その数年後にこういった形になりますというところを、提示するなど予告をかなり早い段階でして、その準備を 2 年経て実現という流れになるのではないかと考えます。すると、1 年や 2 年ではなかなか難しいもので、5 年ないし 6 年かかって、とにかく第 2 次教育振興計画の範囲内で具体的に動き出すということは可能かなとは思っています。それぐらいの時間はみていく必要はあるかと思います。

○原田教育長

学区の問題なので、学校の統廃合も当然含まれた形で議論になりますが、たとえば議会あたりの状況等も考えると基本的には、学校を統廃合して少し、規模を考えたらどうかという意見が大勢なわけで、在り方検討委員会を開いてその方向性を定めて、何年になるかわかりませんが、たとえば平成 35 年に新たな体制でスタートしますという道筋をきちんと来年、再来年の 2 年間ぐらいの中で、つけておく必要はあるわけです。そうするときに事務局として、会を開くときにどういうふうな提案をしていくかということもとても大事になってくると思います。お任せしますよということにはならないし、教育委員会ではこのような方針で臨みたいという、ある程度、投げかけていかないとなかなか、結論をだしていただけないと思います。結論を出してスタートするまではあと 5 年ぐらい。

○大竹教育主幹

原案を作成するに当たっても、やはり役場の各課と連絡調整とりながらやっていく必要がある

と思いますので、その辺もあわせて考えていきたいと思っています。

○田宮町長

再度、各分野、全体を見ていただき何かご意見ありましたらお願いします。

今後の、会議の持ち方はどうなりますか。

○佐藤学校教育課長

教育委員会で、ご意見をいただいたところを直しまして、1月4日からのパブリックコメントにこの内容を提出、その後パブリックコメントでいただいた内容を、もう一度精査しまして、事務局会議、策定会議、策定委員会を経て答申ということになります。

議会へは、2回ほど報告させていただいています。議会へは完成形でお示しします。パブリックコメントの前に、今日いただいた内容を課長会議で配布して、この内容でパブリックコメントに出しますということで話をします。

○田宮町長

27日が所管の委員会ですよね。こういった内容でパブリックコメントにかけますよということをお伝えおかないといけないのでは。

○原田教育長

27日の所管の委員会に提出すれば、後は完成形を示す必要がないのではないのでしょうか。

○田宮町長

委員会としては、これを“良”としていたわけですよね。

○佐藤学校教育課長

はい

○田宮町長

だとすれば、教育委員会・総合教育会議を踏まえてパブリックコメントに1月に出すように原案がまとまりましたので、と報告して、コメントが出てきて、委員会等で決めて所管の委員会に提出、手順を踏んでということで。このようなことで、よろしいでしょうか。本日の協議事項の計画（案）につきましては、一部文言を直していただいて、ということでさせていただいてよろしいでしょうか。（全員了承）本日はありがとうございました。

4 その他 なし

5 閉 会

○田川課長補佐(兼)管理係長

平成28年度 第3回河北町総合教育会議会を終了させていただきます。

～午後3時40分